

# めぐみ

2025年  
1月号

学校法人 聖公会北関東学園  
認定こども園  
初雁幼稚園  
〒350-0057 川越市大手町 8-5  
Tel 222-5385 Fax 228-5010

## 旅の思い出

年中たんぽぽ組担当 山田 葉月

突然ですが、皆さんは昨年どんな旅行をしましたか？私は夏に急な休暇を1日いただけることになり、何か楽しめることはないかなとネットを見ていると目に入ったのが、「日帰りバスツアー」。乗っているだけで遠くに連れて行ってもらえ、おいしいものを食べ、帰りには手土産をもらい、気軽に参加できる日帰りバスツアーに若い頃同僚と利用していたことを思い出、これだ！と探し始めました。そして、出発2日前に残り2席、川越発の「山梨桃狩り 40分食べ放題ツアー」を見つけたのです。「残り2席」ということは相席になるかも…と思い、家族LINEに「私、桃狩りツアー行くんだけど2日後行きたい人いる??」と送ると長女から秒で「行く！」と返信が(笑)。と言うことで滑り込み申込をし、初めて2人旅をすることになりました。

そして迎えた当日。バスに乗り込むと年配の方たちばかり。私は予想していたのですが、修学旅行的な旅行を予想していた娘は苦笑い。ともあれ盛りだくさんのスケジュールに向かって出発です。まずは、桃太郎伝説のある日本三奇橋の猿橋。2人で写真を撮り合いながら散策。笹一酒造で試飲をしながらお留守番組のお土産を2人で「あーだこーだ」言いながら買い込んだあとは、お楽しみのランチ「特選牛陶焼き御膳」。道の駅の大食堂の長テーブルで、各グループで向かい合わせで食べるスタイル。隣の方とのスペースはもちろんなく…。ネットのイメージ写真から個室で食べられると思っていた娘は再び苦笑い。知らないマダムたちにぎゅっと囲まれ食べている娘に私もニヤニヤと違う意味で楽しい食事時間になりました。最後は目玉の桃狩り食べ放題。硬すぎず食べ頃の桃を見つけるのはなかなか難しく、「あっこれ当たりじゃない？」なーんて2人で盛り上がりながらお腹いっぱい食べました。

移動のバスでは、友だちのこと、受験のこと、将来のこと、普段できない話をしました。旅の力ってすごいですね。家では聞きにくいことやぶつかってしまう話題も友だちと話すように盛り上がりました。

帰路のバス。「このバス寒いね」「そう？」数十分後、「節々痛くなってきた」「えっ(°o°;;)。そうだった、彼女は行事に弱かった(汗)。幼稚園の行事前には必ず熱をだし、旅行中に発熱することも数知れず。でも今回は最後まで旅行を満喫でき成長したのかな(笑)

初めての長女との2人旅。旅を通じていろいろな気持ちを共有できました。そして「あの時、あんなものを食べたね」「あんな服を着てたね」と思い出を振り返る。旅は旅をして終わりではなくて、その後も続いていきます。娘たちも大きくなりそれぞれの予定があり家族揃って…ということが難しくなってきましたが、今年もさまざまな形の旅を楽しみたいと思います！

# 今月の保育目標と予定

## ☆保育目標☆

### 今月のテーマ

「いっしょにね」

### 今月のねがい

- 友だちとアイデアを出し合い、工夫して遊びを充実させる
- 神様への思いが膨らむ

### 学年別のねがい

- (1歳) 身体をいっぱい動かす
- (2・満3歳) 友だちとのつながりを楽しむ
- (年少組) 友だちと一緒に遊びを充実させる
- (年中組) 集団で遊ぶおもしろさを感じる
- (年長組) 活動に見通しを持ちながら取り組む

### ひとこと

新しい年を迎えました。今年もどうぞよろしく願いいたします。

3学期の始まりです。幼児部は聖劇を通して友だちと一緒に一つの物を作り上げていく喜びと自信を味わったのではないかと思います。その自信を持って、友だちとアイデアを出し合い、遊びを充実させていく1月となってほしいと思います。つくし・もも組も近づいてくる進級に向けて友だちと一緒に安心して生活しながらその歩みを進めていってほしいと思います。

### 今月の聖歌

「ひとりひとりのなをよんで」

## ★予定★

日	曜	行事などの予定
1	水	元日
2	木	教職員預かり保育冬休み（～3日）
3	金	
4	土	就労家庭保育実施日
5	日	
6	月	
7	火	
8	水	始業式・短縮（半日保育）
9	木	アルミ缶回収
10	金	全体礼拝 ↓
11	土	就労家庭保育実施日
12	日	
13	月	成人の日
14	火	おはなしの会
15	水	
16	木	
17	金	全体礼拝
18	土	就労家庭保育実施日
19	日	
20	月	JR 出前授業 小江戸こそだてフォーラム
21	火	
22	水	
23	木	社会見学
24	金	全体礼拝
25	土	就労家庭保育実施日 保育実践研修会
26	日	
27	月	
28	火	
29	水	1月生まれ誕生会
30	木	
31	金	全体礼拝



# チャプレンのページ

## 三人の博士



彼らはひれ伏して幼子を拝み、宝の箱を開けて、  
黄金、乳香、没薬を贈り物として献げた

(マタイによる福音書 第2章 11節)

12月19日、子どもたちがイエス様の誕生の物語、聖劇を全員で演じてくれました。子どもたちは全員、言葉だけでなく全身をもってイエス様誕生の喜びを実感してくれたのではと思います

さて聖劇をご覧いただいておりますので、イエス様の誕生劇は以下の4つで構成されています。

- ① 母となるマリヤのところへ天使の長ガブリエルがお告げに来る
- ② 人口調査のためベツレヘムへの旅を余儀なくされ、イエス様はベツレヘムで生まれ、布にくるまれて飼い葉おけに寝かされた
- ③ ベツレヘム付近で野宿していた羊飼いたちに、その誕生が知らされた
- ④ 3人の博士たちが星に導かれてやってきた

このうち、①から③は、ルカによる福音書に記されている物語になります。またルカによる福音書には、マリアが受胎告知の後に、親類であるエリサベトのところを訪問した話、イエス様誕生後40日目に、神殿に礼拝に行った物語も記されています。

そして④の物語は全く別の個所に書かれており、マタイによる福音書に記されている物語になります。

3人の博士たちは、現在のトルコに住んでいた人たちで、火を拝む宗教であるゾロアスター教の祭司だったと考えられています。彼らは毎日天体観測を行い、新しい星を発見したり、これまでなかった天体の動きを観測すると、専門の星占いをして、それが何を現すかを明らかにしていたのです。そしてこの時に現れた不思議な星は、ユダヤの王誕生のしるしだと知って、黄金、乳香、没薬の3つの献げものを持って、はるばる約1500kmの道をたどってきたのでした。

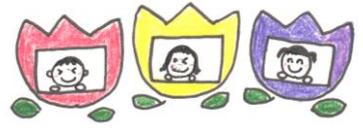
マタイによる福音書は、ユダヤ人がイエス様を救い主キリストと信じることを願って書かれた福音書でした。マタイは3人の博士の物語を書きながら、黄金は神の国の王としての贈り物、乳香は救い主キリストとしての贈り物、没薬は十字架上の死を現す贈り物であり、イエス様は命をささげる救い主キリストとしてこの世界に来られたことを示し、自国ユダヤの人々に受け入れてもらいたいと、願ったのでした。

ところが、ユダヤ教の人たちは現在もイエス様を救い主として認めず、エルサレム神殿で堅く閉ざされている「黄金の門」を開いて救い主が入ってくると信じています。マタイの福音書が書かれてすでに2千年近い日々が通り過ぎていきましたが、マタイの願いは今日まで実現していないのに驚かされます。

マタイはユダヤ人の救いを願いつつ、殉教したと考えられています。初雁幼稚園の子どもたちの聖劇を天から見て、イエス様を信じつつ歩んでいる子どもたちを心強く、またほほ笑ましく見ていたに違いありません。

(チャプレン 鈴木 伸明)

# クラスまの窓と



## つくし組

### 楽しいクリスマス🎄

秋はかぼちゃおぼけブームが巻き起こったつくし組。散歩に出るとかぼちゃを探し、ハロウィンが終わった11月になってもまだまだ探していました。ところが12月になり新たなキャラクターが登場！そう、サンタさんです。クリスマスが近づき、お部屋でクリスマスソングを流すと子どもたちもうきうきして自然とクリスマスモードになっていきました。そこで、サンタさんベルを作りました。ジングルベルを流すとサンタさんベルを振りながらみんなで部屋中をぐるぐる歩き回り、曲が終わると「もう1回！」とリクエスト。音楽がとても大好きな子どもたちです。またあるときは小さなペットボトルにセロファンやキラキラした飾りを思い思いに入れてマラカス作り。以前に比べてだいぶ手先も器用になりました！おもちゃのチャチャチャやクリスマスソングを流すときにそのマラカスを渡すとみんなでマラカスを振って大合唱♪自分で作った楽器を使うのでより楽しんでいて、12月もとても賑やかでした。

## もも組

### 新しい遊び方みーつけ！



自分たちで作った手作りバックを肩にかけてお宝探しのように周りを見ながら散歩を楽しむももぐみ。イチョウ、ドングリ、石や小さな木の枝…子どもたちは好きなものを見つけては大切そうにバックにしまい家に持ち帰ったり、お迎えが来た時にお父さんやお母さんに見せてあげることを毎回楽しんでます。公園からの帰りは「カラッカラッ」「ポロンポロンッ」と子どもの歩く音に合わせてお土産たちが鳴っていて、まるでリズムを奏でているかのような賑やかな空間が生まれます。そんなバックもお土産を入れるだけではありません。ある子がバックを目元に当てていたのになにをしているかと思うと…「はいっ！チーズ！」。なんと牛乳パックで作ったバックがカメラに見えたようです。それを見ていた友だちも「まねっこしたい!!」というように、次々と同じポーズを取り先生や友だち、木や虫など自分の好きなものを撮っては楽しんでます。大人では気づかないような発想や発見が面白いですね。カメラの次はなにに変身するのかな？

## ちゅうりっぷ組

### 憧れの！

初雁幼稚園の大イベント聖劇礼拝が終わりました。かわいらしい羊に変身して、ドキドキしつつも頑張っていましたね♡そんな聖劇の練習真っ只中の12月中旬、練習をする年長組の姿を見て「ぼく（わたし）もやりたい」とウズウズしていたちゅうりっぷ組。早速部屋でチョコキチョコキと工作をして、風呂敷で身を包み天使に。年長組と同じ姿になって嬉しそうな笑顔！園

庭やウッドデッキで練習している姿を見つけると、一緒に参加させてもらいまねっこしてセリフや歌をうたっていました。

冬休み中はもも組と合同で過ごし、散歩でいつも年中長組につないでもらっている手は、小さいもも組とつなぐ大きい子の手になりました。優しくそっとリードしてあげたり、車がくればさっと端によってくれたり。いつの間にこんな頼もしくなったのでしょうか。そんな姿を見てるとほっこりします。今まで年中長組ができてくれたことが、ちゅうりっぷ組の中にあるのでしょうかね。「1人でできるし」「数かぞえてて（そのうちにやるから）」「先生手伝って！やってー」、年中長組を目指しつつ、甘えん坊になってみたり憧れに向かって過ごしている様子です😊

## たんぽぽ組

今の姿が次へのステップへ

クリスマスの準備が始まると、「たんぽぽさんはお星様するんだよね」と嬉しそうに話をする声が聞こえてきました。素敵なお星になるために大きくても怒鳴らない声で、せっかくなにかよく歌えてもポケットに手を入れていたり、髪の毛を触っていたらどうかな、と練習ごとに振り返り本番を迎えました。当日はすっと立ち上がり背筋を伸ばして自信を持って歌う立派な姿に胸が熱くなりました。ドキドキしたり、衣装が苦手だったり、さまざまな思いの中、自分なりの方法でイエス様のお誕生をお祝いすることができたと思います。

2学期は友だちとの関わりが深まりました。言葉の伝わり方やニュアンスの相違で、涙が流れ、仲直りを繰り返してきました。集まりでおしゃべりが止まらない子、待たせてしまった子。いろいろな姿に、声を掛け合い気付き合うことができました。どれも今の姿があるからこそ次への成長につながっていきます。3学期、たくさん自分を出してぶつかり合いながら、みんなで、すみれ組に近づいていけたらと思います。

## すみれ組

すみれ組だけのご褒美タイム♪

聖劇の準備は11月から始まります。最初のごっこ遊び、その次に役決め、台本作り、幕ごとの練習、全体練習、野澤先生と教会練習、衣装合わせとやるがたくさんあります。初めて分かるすみれ組の聖劇練習の多さと、一人一人感じる責任感に大人も子どもも毎日やることいっぱいでした。それと同時に風邪が流行し、全員揃うまで毎日練習をしていました。ただ誕生会でもそうでしたが、友だちと演じたり歌うことが好きなので練習やりたくないという子はいなく、立ち位置や台詞を一生懸命覚えます。聖劇礼拝の台詞や歌詞は、子どもたちにとって難しい言葉が多いので大変でした。しかし幼稚園だけでなく、台本を持ち帰り「お家で練習したよ！」と頑張る子どもたち。昨日よりも、今日の自分を越えていこうとする子どもの姿に、担任も驚くほどの成長を感じました。

練習だけでは疲れてしまうので午後は散歩に行きました。園庭より広い公園に子どもたちも伸び伸び走ります。葉っぱや木の実などを集めお店屋さんごっこ、大中小の葉っぱを集め占いごっこ、外なら歌が響くと練習を怠らない子もいます。いつもはおもちゃを貸したり、場所を譲ったり、年長として我慢していることもあると思いますが、すみれ組だけの空間はご褒美タイムになりました。

子どもたちが頑張ってきたものが、神様やお家の方々にも届くこと願っています。



# 今月の聖書のおはなし



☆1月10日「見失った羊のたとえ」

ルカによる福音書 15 : 1~7

イエス様のたとえ話です。「あなたがたが羊を100匹持っていたとして、そのうちの1匹が迷子になったとしたら、99匹を野原に残して、その1匹を見つけ出すまで探し回るだろう。そして、見つけたら喜んで羊を担いで帰り、友だちや近所の人と喜びを分かち合うだろう。」神様は99匹の羊を野原に残してでも1匹の羊を探し出すように私たちのことを大事に愛してくださるというお話です。

☆1月17日「悪魔から誘惑を受ける」

マタイによる福音書 4 : 1~11

イエス様が荒野で悪魔から誘惑を受けたお話です。イエス様は40日間の断食の後、空腹を覚えられました。そこへ悪魔がやってきて言いました。「神の子なら、これらの石がパンになるように命じたらどうだ。」イエス様は『人はパンだけで生きるものではない。神の口から出る一つ一つの言葉で生きる』と書いてある。」と、聖書の言葉を用いて悪魔に対抗しました。こうして、悪魔から4つの誘惑を受けますが、どの誘惑に対しても聖書の言葉を持って応え、悪魔の誘惑を退けたのでした。

☆1月24日「イエスさまとザアカイ」

ルカによる福音書 19 : 1~10

エリコの町にザアカイという男の人がいました。ザアカイは税金を集める仕事をしていましたが、必要以上の税金を取り立てて、自分のものにしていたので、みんなから嫌われていました。金持ちだけれど、友だちのいないザアカイはいつもひとりぼっち。寂しい毎日でした。そんなある日のこと、エリコの町にイエス様がおいでになりました。町中の人々がイエス様を一目見ようと出てきました。ザアカイもイエス様に会いたくて出てきましたが、大勢の人に前をふさがれて見ることはできません。そこで、ザアカイはそばにあったいちじく桑の木に登ります。イエス様は木の下を通りかかるとザアカイに向かって言いました。「ザアカイ、急いで降りてきなさい。今日はぜひあなたの家に泊まりたい。」ザアカイは急いで木から降りると、大喜びでイエス様を家に迎え、もてなしました。そして言いました。「私は自分の財産の半分を貧しい人々にあげることにします。だましとったお金は4倍にして返します。」イエス様に優しく声をかけられ、友だちになってもらったザアカイは、すっかり変えられたのでした。

☆1月31日「エルサレムに迎えられたイエスさま」

マタイによる福音書 21 : 1~17

イエス様の十字架への道が始まります。イエスさまは小さな子ろばに乗ってエルサレムの都に入城します。群衆は歓声を上げてイエス様を迎えます。その後、神殿の境内に入ったイエス様はそこで商売をしている人たちを追い出し始め、『私の家は、祈りの家と呼ばれるべきである。』ところが、あなたたちは、それを強盗の巣にしている」と激しくお叱りになりました。そして、そばに寄って来た目の見えない人や、足の不自由な人たちを癒やされたのでした。その様子を見ていた祭司長や律法学者たちはイエス様に腹を立て、憎しみの感情を抱いたのでした。  
(山岡 理恵)